

イソホーメーション

サーキュラー No. 15

1973年5月

内 容

I 第6回大会案内	1
II 第9回運営委員報告	4
III 研究機関紹介(その4)	6
IV 会員変動	8

日本発生生物学会

大阪市住吉区杉本町

大阪市立大学理学部生物学教室 (〒558)

◎ 最終的な第6回大会案内をおとどけます。

御出席の方は6月6日迄に、同封申し込み用紙をおとどけ下さい。(1頁3の項参照)

◎ このサーキュラーは大会までは保存下さい。

インスタント人工海水

アクアマリン

姉妹品 ◇ ボースアクアマリン(海水魚淡水魚同時飼育剤) アクアマリンM
(人口海水用添加液) アクマリンK (海藻育成液) 其の他

八洲薬品株式会社 水産事業部

大阪市西区京町堀1丁目145 TEL (44) 3036・3037・2191
3038・3039・1422

I 日本発生生物学会・第6回総会ならびに大会の御案内

今年度の学会総会および大会につきまして、次のように準備をすすめています。いろいろ至らぬところも多いと思いますが、多くの方々の御参加をお待ちしております。

1. 大会日程

	9月3日(月)	9月4日(火)	9月5日(水)
午前	運営委員会ほか 学会関係委員会	一般講演	一般講演
午後	一般講演 小分科会*	招待講演* 総会 小分科会*	一般講演

*については5の項をみて下さい。

2. 会場

京都市左京区聖護院川原町

京都教育文化センター (TEL 075-771-4221)

3. 参加ならびに講演の申し込み

- a) 参加希望者は別紙添付の参加申込票に必要事項を記入の上、大会参加費1,500円をそえて、6月8日までに、京都市左京区北白川 京都大学理学部植物学教室 馬場三吾 (TEL 075-751-2111 内線4128) へ申込んで下さい。
送金には定額小為替(添付のもの)を使用し、指定受取人の住所氏名は上記のとおりをお願いします。なお、払込通知票の受領証をもって、大会参加費の受取りにかえさせていただきます。
- b) 講演希望者には、6月10日頃に講演要旨をお書き頂くための所定の原稿用紙を送りますので、御記入の上、6月30日までに必着するより、京都市左京区北白川

京都大学理学部植物学教室 竹内郁夫 (TEL 075-751-2111 内線
4127) までお送り下さい。原稿記入の要領は用紙をお送りする際に添付します。

c) 講演は従来通り1人1題とします。(但し、共同研究者として加わっておられる場合は、この限りではありません。)

d) 講演時間は討論を含めて1題20分を予定しています。スライドの準備その他の注意につきましては要旨記入用の用紙をお送りする際に連絡します。

4. 講演要旨集は、大会への参加の有無にかかわらず、全会員にあらかじめ配布します。

5. 今回の大会では招待講演と小分科会を企画しました。

招待講演：大会参加者の一同がおのおの専攻テーマにとられることなく、いくつかの発生生物学上の問題について講演をきき、討論できる機会をもらいたいと考えました。招待者は準備委員会で交渉しておりますが、瀧本敦(京大・農)、山田康之(京大・農)、藤田哲也(京府立医大・病理)、小関治男(京大・理)の各氏を予定しております。

小分科会：専門化されたテーマにつき、かなりつっこんだ討論ができるような分科会(シンポジウム形式)を設けたいと考えました。同じような試みは第2回大会(金沢)でもたれ、有意義であったと記憶しています。この分科会のオルガナイザーを会員から広く求めます。小分科会は9月3、4の両日に10分科会程度が可能なように会場を確保しています。オルガナイザー御希望の方は、京都市左京区北白川 京都大学理学部生物物理学教室 岡田節人宛(TEL 075-751-2111 内線4196)6月6日までに申し出て下さい。

但し、分科会の最終的なプログラミングに関しては、大会準備委員会におまかせ願います。なお、小分科会についてのお問い合わせも、上記宛にお願いします。

6. 宿泊について

準備委員会としてはお世話いたしかねますので、お手数ながら各自で予約して下さい。

7. なお、本大会を開催するための予算は、発生生物会としては、ほとんどありませんので、すべての費用は大会参加費、講演要旨集に掲載させる広告料によってまかなうこと

になります。したがって、もし協賛会を会員の方々から会計担当委員まで御紹介いただけましたら何よりの大会準備委員会にとりまして俵せてございます。

8. 総会および大会についてのお問合せ、意見は準備委員まで申し出て下さい。

4月24日

日本発生物学会 第6回大会準備委員会

委員 岡田節人 (代表) 京都大学理学部生物物理 (TEL 075-751-2111内線4196) :

江口吾朗 (会場担当) 同上: 竹市雅俊 同上: 岡本光正 同上 丸山工作

同上 内線 4205)

龍本 敦 京都大学農学部農林生物 (TEL 075-751-2111内線6140) :

竹内郁夫 (プログラム担当) 京都大学理学部植物 (TEL 075-751-2111

内線 127) : 馬場三吾 (会計担当) 同上: 前田靖男 (委員会書記) 同上

白上謙一 京都大学理学部動物 (TEL 075-751-2111内線4080) :

萩原淳嘉 同上: 馬屋原宏 (プログラム担当) 同上: 村松 繁 同上 (TEL

075-751-2111内線4088)

天野 宏 同志社大学理工学部 (TEL 075-211-2311)

藤田哲也 京都府立医大病理 (TEL 075-231-2311)

Ⅱ 第 9 回 運 営 委 員 会 報 告

昨年秋に行なわれた選挙の結果選出された新会長および新運営委員による第8回運営委員会が、1月29日名古屋の愛知会館にて、開催された。討議事項は、下記のとおりであるが、未決定のものも含まれており、9月初旬に予定されている第9回運営委員会にて、さらに検討した上で、総会に報告されるので、ここでは簡単にふれておく。

1) 事務局の構成について 幹事長・幹事の委嘱

次の運営委員会までに幹事長、幹事、事務局所在地を選考することになった。

なお、それまでは現行のままで行くことになった。また、幹事長の任期を明確にするようにとの提案があった。

2) 1973年度予算案 (別項参照)

3) 運営委員選出方法について、下記の問題点が討議された。

a. 運営委員選出は、14名連記する必要があるか。

b. 選挙管理委員会は、事務局におき、事務局以外から立合い人を選出する方がよいのではないか。

c. 分野、地方別を考慮する必要があるか。

d. 運営委員の人数は適当であるか。

上記の問題点は、引き続き運営委員会にて検討して行くことになった。

4) 第7回大会予定地について

第一候補地として、名古屋地区が決められた。

5) DGD編集主幹および単行本委員会の選出について

ともに次回の運営委員会にて選考することになった。なお、発生物学会編・単行本第4号(動物の器管形成)は、印刷中で第5号は、「生物におけるリズム」(仮題)の予定であるとの報告があった。

昭和48年度 暫定予算案

これは、昭和48年1月29日に名古屋で行なわれた運営委員会で承認されました。

9月初旬に行なわれる予定の総会までの暫定案です。

収入の部

1. 前年度繰越手持金	800,000円
2. 会費	1,800,000
3. DGD売上げ	1,900,000
4. 岩波単行本収入	300,000
5. 広告代金	250,000
6. DGD科研費補助金 (S47・S48)	540,000
	<hr/>
	5,365,000円

支出の部

1. DGD vol・14 №34印刷製本費	1,200,000
2. DGD vol・15 印刷製本費	2,200,000
3. DGD 編集・送本費	550,000
4. 事務局経費	1,050,000
{ 事務用品	40,000円
{ 通信費	270,000
{ アルバイト料	300,000
{ 幹事手当 (3人)	90,000
{ 運営委員会	
{ 事務局会議) 旅費	150,000
{ 印刷費 (サーキュラー)	100,000
{ 予備費	100,000
5. 第6回大会講演要旨印刷費	250,000
6. 第6回大会援助費	50,000
	<hr/>
	5,300,000円
7. 次年度繰越金	65,000円

会費納入状況

会員各位の御協力によって、昭和48年3月20日現在で、昭和48年度会費は、約88% (178人/464人) 納入されています。

未納の方は、できるだけ早く、お納め下さるようお願い致します。

会計幹事

Ⅲ 研究機関紹介

山形大学理学部生物学科細胞学研究室

構成：中沢信午 (教授) ・安部 守 (助教授) ・松本政美 (講師) ・専攻科学生2名・4年学生10名

研究：シダ配偶体の分化と極性決定、ヒバマタ卵の分化と極性決定、ダイズ胚軸の分化の生理、細胞性粘菌の分化について、イトミミズの初期発生における細胞化学的研究などが目下の中心問題として研究されつつある。実験設備があまりそろっていないこと、また文献が不足していること、近年の管理運営における多忙化などにより研究時間が少なくなりつつあることなどが不満足点であろう。

なおヒバマタの研究は都合によって北大の海藻研究所におもむいて出張実験を行なうもので、山形ではその実験は行われていない。

(中沢信午記)

東京大学教養学部生物学教室（動物関係）

当教室は講座制ではないので、各人が一国一城の主で研究を進めているのが特徴である。一般教養の常として予算もスペースも甚だ不足しているが、足りない所は他大学・研究所との間の共同研究などで補い、また動物・植物の間の垣根も存在しない。動物関係は実験材料の点で8つに大きく分けることができる。

1. 昆虫関係 大関和雄教授はハサミムシの変体時の前胸腺およびアラタ体ホルモンの働きを実態形態学的手法で研究している。茅野春雄助教授の部屋では、つい最近院生の桜井勝が予研の大滝哲也氏と共に、カイコの前胸腺を組織培養して変態ホルモンの *in vitro* の生合成に成功した。茅野はこの春で北海道大学の低温研に転出するが、この仕事を続けるとともに、昆虫の休眠の代謝調節ならびに成虫分化の問題に取り組む予定である。芦田正明助手はカイコを材料に変態ホルモンとフェノール・オキシダーゼの関係を追及している。また石川統助手はワックス・モスなどを用いてリボソームRNAの系統進化に新知見をもたらしつつある。これらの人々は、大関教授を中心にして科学研究費の総合研究班を形作っている。

2. 海産無脊椎動物関係 毛利秀雄助教授のグループがウニの精子と卵を材料にいくつかの問題と取り組んでいる。毛利は院生の小林義輝や都立大院生の小川和男と共に、精子のべん毛運動の分子機構を解明しつつある。今春東大海洋研助手となった森沢正昭はべん毛運動と重金属イオンとの関係を研究した。また院生の奥野誠は東工大の平本幸男教授の下で繊毛運動の生理的解析を行なっている。卵に関しては院生の佐野清が分化に伴う細胞の表面荷電の変化を調べている。また研究生の佐藤由美子は受精初期発生における脂代謝の研究を開始した。星元紀助手は卵および精子の糖脂質に関する研究を行っており、受精分化における細胞表面の役割をこの方面から明らかにしようとしている。このグループは東大医科研の永井克孝助教授のグループと密接な関係を保っている。

3. 哺乳類関係 伊藤薫教授はモルモットの発生に伴う脳の物質代謝の変化を研究している。また木村武二助教授は、マウス腔上皮の分化に及ぼす出生前後からのエストロゲン継続投与の影響を調べている。木村は院生の林進と共に、性行動におけるフェロモンの働きも追求しつつある。

現在のところ当教室の動物関係では、理学系相関理化学課程の院生のみをとることができる。植物関係には相関理化学の他に植物課程・生化学課程の院生もつくことが可能である。

毛利 秀夫 記

Ⅳ 会 員 変 動

1. 新 入 会 員 (1972. 10. 以降入会)

- ✓ 伊藤 富夫 ①東京教育大 理 動 ②囊胚形式開始機構他 ③カプトガニ
- ✓ 小沢鉄二郎 ①東京医科歯科大 医 薬理 一東京都文京区湯島1-5-47 (〒113)
②骨格筋の発生 ③骨格筋
- ✓ 加藤 義臣 ①国際基督教大 生物 ②昆虫における脱皮, 変態の機構 ③カイコ
- ✓ 佐々木直井 ①九州大 理 生 ②一次誘導 ③アカハライモリ
- ✓ 鈴木 幸一 ①岩手大 農 応用昆虫学研究室 一盛岡市上田3-18-8 (〒020)
②カイコ休眠卵の物質代謝 ③*Bombyx mori* L.
- ✓ 橋本 碩 ①静岡大 教育 生 ②海生ユスリカの研究 ③ユスリカ
- ✓ 瀧側 祐一 ①京都大 理 動 ②両生類初期胚の発生 ③カエル イモリ

1973. 4. 18 現在

2. 名簿 (1972. 10 発行) 訂正

- ✓ 1. 渡辺 彊 : 山口大→東北大に